



【知床世界自然遺産登録 20 周年記念シンポジウム】

知床世界自然遺産登録 20 周年を迎えるにあたり、昨年 8 月 31 日に斜里町「ゆめホール知床」において、「知床の海と未来～豊かな海の生態系と地球温暖化～」をテーマにシンポジウムが開催されました。

当日は、福島県「アクアマリンふくしま」の学芸員である松崎浩二氏による「新種の宝庫！知床半島。深海までも世界遺産？？」をテーマとした基調講演と、知床森林生態系保全センターの生態系管理指導官による「知床世界自然遺産地域における北海道森林管理局の取組について」をテーマとした講演が行われました。



生態系管理指導官の講演では、知床森林生態系保護地域の説明や、自然遺産地域と河川環境の保



全、河川工作物の効果検証に関する、サケ類の遡上や降下調査、夏季の水温上昇によるオショロコマの減少傾向などの事例が紹介されました。



その後、知床世界自然遺産地域科学委員会海域ワーキンググループ座長であり、北海道大学大学院准教授の山村織生氏が進行役を務め、パネルディスカッションが行われました。パネリストとして、前述の松崎浩二氏のほか、屋久島町長、知床ダイビング企画代表、羅臼昆布・ウニ漁師、斜里高等学校 3 年生の 6 名が登壇し、「知床の未来から考える、私たちの未来とアクション」をテーマに、約 1 時間半にわたり、知床の未来について熱心な意見交換が行われました。

また、シンポジウムには主催者として林野庁長官も出席し、一般の方を含め約 160 名が参加しました。

一般参加者からも貴重な意見をいただき、有意義な 20 周年記念シンポジウムとなりました。

